

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2020年2月14日
【四半期会計期間】	第73期第3四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）
【会社名】	特殊電極株式会社
【英訳名】	TOKUDEN CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 上林 克彦
【本店の所在の場所】	兵庫県尼崎市昭和通二丁目2番27号
【電話番号】	(06)6401-9421(代表)
【事務連絡者氏名】	管理本部長 井嶋 正
【最寄りの連絡場所】	兵庫県尼崎市昭和通二丁目2番27号
【電話番号】	(06)6401-9421(代表)
【事務連絡者氏名】	管理本部長 井嶋 正
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第72期 第3四半期 連結累計期間	第73期 第3四半期 連結累計期間	第72期
会計期間	自2018年4月1日 至2018年12月31日	自2019年4月1日 至2019年12月31日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
売上高 (千円)	7,997,829	8,077,788	10,634,183
経常利益 (千円)	631,847	802,010	750,659
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (千円)	436,296	552,450	520,644
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	434,741	556,357	522,185
純資産額 (千円)	4,750,343	5,334,854	4,837,788
総資産額 (千円)	8,802,985	9,153,324	8,811,011
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	551.89	698.82	658.59
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	53.7	58.0	54.6

回次	第72期 第3四半期 連結会計期間	第73期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自2018年10月1日 至2018年12月31日	自2019年10月1日 至2019年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	143.69	196.83

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、2019年6月30日付で、株式会社光通信による当社株式直接保有分及び同社の子会社である株式会社プロードピークを通じた当社株式間接保有分を合算した所有議決権比率の合計が20%以上となったことに伴い、株式会社光通信が当社のその他の関係会社となっております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢の改善が引続き見られ、景気は緩やかな回復基調が続いておりますが、米中貿易摩擦の激化、また消費税率引上げによる消費活動への影響が顕在化し始めるなど、依然として先行き不透明な状況で推移しております。

このような状況の中にあって当社グループは、営業部門におきましては、営業活動の効率化と高度化を推進し、売上拡大に鋭意努力してまいりました。

生産工場及び工事工場におきましては、安全第一のもと、技術の伝承を進めると共に品質の向上や作業の効率化を推し進めてまいりました。

研究開発などの技術部門におきましては、新技術、新装置・機械、新製品・商品の開発ならびに既存技術の向上に取り組んでまいりました。

また、海外子会社におきましては、販売体制の強化を進めてまいりました。

その結果、当第3四半期連結会計期間末の財政状態及び当第3四半期連結累計期間の経営成績は、以下のとおりとなりました。

財政状態

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ342百万円増加し、9,153百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ154百万円減少し、3,818百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ497百万円増加し、5,334百万円となりました。

経営成績

当第3四半期連結累計期間の売上高は8,077百万円（前年同四半期比1.0%増）となりました。損益面におきましては、営業利益は772百万円（同24.7%増）、経常利益は802百万円（同26.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は552百万円（同26.6%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

工事施工は、積極的な提案型営業と高度技術の提供、徹底したコスト削減の実行により、受注拡大に努めました結果、トッププレート工事、アルミダイカスト関連工事、連続鑄造ロール肉盛工事、鉄鋼関連の保全工事の受注が増加したことにより、売上高は5,662百万円（前年同四半期比13.0%増）、セグメント利益は940百万円（同37.6%増）となりました。

溶接材料は、直販体制の優位性を活かし、新規顧客の開拓と既存顧客の更なる深耕による販売力強化に努めました結果、当社の主力でありますフラックス入りワイヤなどの製品の売上高は395百万円（前年同四半期比12.0%増）となりましたが、商品のアーク溶接棒、TIG・MIGなどの溶接材料の売上高は583百万円（同10.1%減）となり、溶接材料の合計売上高は979百万円（同2.3%減）、セグメント利益は153百万円（同5.9%増）となりました。

環境関連装置は、自動車産業用試験装置・検査装置の受注は増加しましたが、自動搬送車（AGV）による搬送ライン装置、自動車産業用粗材冷却装置等の受注が減少したことにより、売上高は848百万円（前年同四半期比38.1%減）、セグメント利益は113百万円（同44.1%減）となりました。

その他は、自動車関連のダイカストマシーン用部品の受注が減少したことにより、売上高は588百万円（前年同四半期比4.4%減）、セグメント利益は44百万円（同12.8%増）となりました。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発活動の金額は、47百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,604,000
計	2,604,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	801,000	801,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	801,000	801,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日		801,000		484,812		394,812

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6)【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 10,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 790,100	7,901	-
単元未満株式	普通株式 500	-	-
発行済株式総数	801,000	-	-
総株主の議決権	-	7,901	-

【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名又は 名称	所有者の住所	自己名義所有株式 数(株)	他人名義所有株式 数(株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
特殊電極株式会社	兵庫県尼崎市 昭和通二丁目 2番27号	10,400	-	10,400	1.30
計	-	10,400	-	10,400	1.30

(注)株主名簿上は当社名義株式が10,453株あり、当該株式のうち53株は上記「発行済株式」の「単元未満株式」欄に含めております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,640,232	1,612,139
受取手形及び売掛金	3,551,988	3,893,091
電子記録債権	457,769	402,377
商品及び製品	603,458	651,146
半成工事	403,953	512,455
原材料及び貯蔵品	99,068	113,857
その他	98,783	94,447
貸倒引当金	21,650	22,405
流動資産合計	6,833,604	7,257,110
固定資産		
有形固定資産		
土地	982,280	982,280
その他(純額)	514,458	478,796
有形固定資産合計	1,496,738	1,461,077
無形固定資産	37,173	43,851
投資その他の資産	443,495	391,284
固定資産合計	1,977,407	1,896,213
資産合計	8,811,011	9,153,324
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,342,759	2,319,284
短期借入金	60,000	60,000
未払法人税等	191,004	78,443
賞与引当金	301,898	168,311
工事損失引当金	9,484	4,873
その他	335,260	432,132
流動負債合計	3,240,407	3,063,044
固定負債		
退職給付に係る負債	568,243	593,974
その他	164,572	161,451
固定負債合計	732,815	755,425
負債合計	3,973,223	3,818,469
純資産の部		
株主資本		
資本金	484,812	484,812
資本剰余金	394,812	394,812
利益剰余金	4,043,502	4,536,662
自己株式	40,273	40,273
株主資本合計	4,882,854	5,376,014
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,298	4,056
為替換算調整勘定	911	159
退職給付に係る調整累計額	74,655	66,354
その他の包括利益累計額合計	71,445	70,570
非支配株主持分	26,379	29,410
純資産合計	4,837,788	5,334,854
負債純資産合計	8,811,011	9,153,324

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	7,997,829	8,077,788
売上原価	5,982,090	5,840,711
売上総利益	2,015,739	2,237,076
販売費及び一般管理費	1,396,351	1,465,005
営業利益	619,387	772,071
営業外収益		
受取利息	349	322
受取配当金	2,774	2,810
駐車場収入	2,216	2,285
受取保険金	849	19,749
その他	7,470	6,102
営業外収益合計	13,661	31,270
営業外費用		
支払利息	511	649
駐車場収入原価	689	681
営業外費用合計	1,201	1,331
経常利益	631,847	802,010
特別利益		
固定資産売却益	760	60
特別利益合計	760	60
特別損失		
固定資産除却損	366	1,490
特別損失合計	366	1,490
税金等調整前四半期純利益	632,241	800,580
法人税、住民税及び事業税	160,265	202,650
法人税等調整額	34,941	41,431
法人税等合計	195,206	244,081
四半期純利益	437,034	556,498
非支配株主に帰属する四半期純利益	738	4,048
親会社株主に帰属する四半期純利益	436,296	552,450

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	437,034	556,498
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,325	6,354
為替換算調整勘定	2,428	2,087
退職給付に係る調整額	8,460	8,301
その他の包括利益合計	2,293	141
四半期包括利益	434,741	556,357
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	435,192	553,325
非支配株主に係る四半期包括利益	451	3,031

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費	88,855千円	83,826千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	27,669	35.0	2018年3月31日	2018年6月28日	利益剰余金
2018年10月26日 取締役会	普通株式	27,669	35.0	2018年9月30日	2018年12月7日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月26日 定時株主総会	普通株式	31,621	40.0	2019年3月31日	2019年6月27日	利益剰余金
2019年10月30日 取締役会	普通株式	27,669	35.0	2019年9月30日	2019年12月6日	利益剰余金

(注) 2019年6月26日定時株主総会決議の1株当たり配当額には、特別配当5.0円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	工事施工	溶接材料	環境関連装置	計				
売上高								
外部顧客への売上高	5,010,369	1,002,460	1,369,676	7,382,506	615,322	7,997,829	-	7,997,829
セグメント間の振替高	-	246,890	-	246,890	42,365	289,255	289,255	-
計	5,010,369	1,249,351	1,369,676	7,629,397	657,687	8,287,084	289,255	7,997,829
セグメント利益	683,569	144,670	202,717	1,030,957	39,843	1,070,801	451,413	619,387

- (注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に自動車産業向けのアルミダイカストマシン用部品の販売であります。
2. セグメント利益の調整額 451,413千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び技術試験費)であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	工事施工	溶接材料	環境関連装置	計				
売上高								
外部顧客への売上高	5,662,338	979,225	848,206	7,489,770	588,017	8,077,788	-	8,077,788
セグメント間の振替高	-	289,549	-	289,549	42,034	331,583	331,583	-
計	5,662,338	1,268,775	848,206	7,779,320	630,051	8,409,371	331,583	8,077,788
セグメント利益	940,725	153,273	113,317	1,207,317	44,955	1,252,272	480,200	772,071

- (注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に自動車産業向けのアルミダイカストマシン用部品の販売であります。
2. セグメント利益の調整額 480,200千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び技術試験費)であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	551円89銭	698円82銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	436,296	552,450
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	436,296	552,450
普通株式の期中平均株式数(千株)	790	790

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

当社は、2019年10月30日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (イ) 配当金の総額.....27,669千円
- (ロ) 1株当たりの金額.....35円00銭
- (ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2019年12月6日

(注) 2019年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月10日

特殊電極株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 千 崎 育 利 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉 村 康 弘 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている特殊電極株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、特殊電極株式会社及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。